

飯伊地区 産業経済動向

No.485 2019/8
(元. 9. 25 発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
地域サポート部
しんきん南信州地域研究所

http:// www. iidashinkin. co. jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数		前月比		前年同月比	
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	2,600	枚	△	28.4 %	△	24.7 %
	金額	3,662,131	千円	△	23.5 %	△	23.4 %
うち不渡発生状況	枚数	0	枚	(前月 2 枚)		(前年同月 0 枚)	
	金額	0	千円	(前月 292 千円)		(前年同月 0 千円)	
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	6	件	(前月 5 件)		(前年同月 6 件)	
	飯伊	0	件	(前月 0 件)		(前年同月 1 件)	
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(7月)		64	戸		12.3 %		146.2 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(7月)		1.48	倍	(前月 1.40 倍)		(前年同月 1.68 倍)	
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	2,234	台	△	18.3 %		5.9 %
	中古車	622	台	△	22.3 %	△	3.1 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (7月)	新車	4,061	台	△	6.0 %		0.1 %
	中古車	1,007	台	△	4.9 %		2.8 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	128,645	台		11.3 %	△	0.9 %
	出	129,808	台		10.3 %	△	0.4 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	86,703	台		9.6 %	△	2.2 %
	出	83,325	台		9.9 %	△	1.3 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	20,452	台		59.0 %	△	4.1 %
	出	20,334	台		53.7 %	△	2.3 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	54,585	台		33.7 %	△	2.2 %
	出	54,901	台		37.1 %	△	3.6 %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		145	件	△	11.0 %	△	1.4 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		7	件	(前月 3 件)		(前年同月 2 件)	
高速バス乗車人数	飯田～新宿	36,863	人		40.2 %		0.4 %
	飯田～名古屋	22,870	人		24.6 %		0.4 %
	飯田～長野	9,253	人	△	1.8 %	△	8.7 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	29,454	人		36.4 %		- %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,616	人		0.2 %	△	5.8 %
	右回り	3,737	人	△	1.0 %	△	1.2 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (<http://www.iidashinkin.co.jp>) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



100%植物性インク
[リサイクル紙100%] を使用しました。

再生紙を
使用しています

概況

製造業

9月の製造業の業況判断指数(DI)は、マイナス50.0で、前月から23.1ポイント下降。翌月予測もマイナス40.7で、前月から0.7ポイント下降している。

電気、精密機械器具の受注は、前月比概ね横ばいも、販売は前月比減少との声。先行きは弱含んでいるという。半導体、液晶製造装置向け部品の受注は、前月比減少～横ばい。販売は、横ばい～やや増加、景況感が悪化した業者も見られる。産業機器や医療機器向け部品の受注、販売の前月比は、増加した業者も複数見られるが、減少～横ばいとの声が多い。「ロボット関連は非常に低迷。客先から見通しが示されず、この先が本当にわからない」など、総じて先行きの不透明感が拭えない様子。建築用金属製品の受注は、前月比、前年比ともやや増加との声。自動車向け部品の販売は、前月比概ね横ばい、前年比はやや増加も、景況感の好転には至らないとの声が寄せられた。小型電磁機器の販売は、前月比減少との声。先行きも弱含んでいるという。FA関連モーターの受注は、前月比概ね横ばい、前年比はやや減少との声。光学機器部品の生産は、前年比やや減少との声。行きも弱含んでいるという。電気、電子製品の生産は、前月比やや減少、「コンシューマー市場が低迷している」など景況感も悪化との声が寄せられた。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比減少～横ばい、一部に前年比やや減少との声。水引製品の販売は、前月比、前年比とも業者により増減分かれる。消費増税に関係して、「盆過ぎから年末に向けた問い合わせが増えてきたが、消費増税を控えた活発さは感じられない」「消費増税前にある程度仕入れを増やす」「量販店の動向を注視している」などの声。漬物の販売は、前月比やや増加、前年比概ね横ばいとの声。

建設業

9月の建設業の景況DIは0.0で、前月から8.3ポイント上昇。翌月予測DIは15.4で、前月から15.4ポイント上昇。

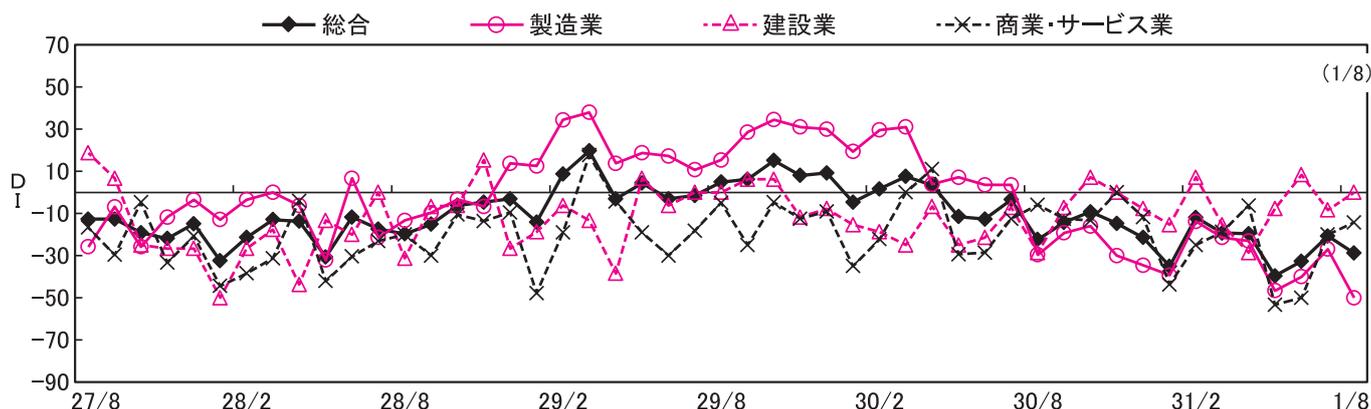
当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約9.7億円、前月比39%減少、前年比も42%減少している(9月15日調査時点)。当月の調査先企業の受注残高は、横ばい～増加。「仕事の発注が早く、8月末時点で昨年10月までの契約高を大幅に超えている」など、例年より早めに発注が進んでおり各社繁忙の様子。

当地区の当地区の7月の住宅着工戸数は64戸。前月比12%増加、前年比も146%増加。当月の調査先企業の受注残高の前月比は、業者により増減まちまち。景況感も分かれる。

商業・サービス業

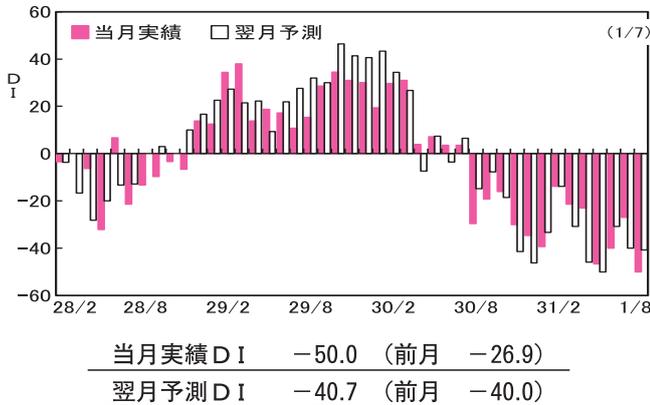
9月の商業・サービス業の景況DIは、マイナス14.3と、前月より5.7ポイント上昇。翌月予測DIは、マイナス46.2で、前月より46.2ポイント下降している。食料品の売上の前月比は、一部に減少との声も聞かれたが、やや増加との声が多い。販売は前月比増加も、前年比ともやや減少という。製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少、先行きに不透明感があるとの声。電化製品の売上は、前月比やや増加、前年比は概ね横ばいとの声が寄せられた。家事用品卸の売上は、前月比概ね横ばいとの声。衣料品の売上は、前月比、前年比とも業者により増減まちまちも、景況感が好転した業者は見られない。「消費増税に関し、今のところ駆け込み的な動きは、さほど見られない」などの声。松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台数は、新車は前月比18%減少、前年比は6%増加。7月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比6%減少も、前年比は概ね横ばい。市内料理店の売上の前年比は、業者により増減分かれる。昼神温泉の売上は、前年比やや減少との声。台風の影響は大きかった様子。タクシーの売上は、前月比増加も、前年比はやや減少との声。

飯伊地区景況DI (本誌調査)



地区内製造業の景況判断指数

飯伊地区景況DI（製造業）



当月の製造業の業況判断指数（DI）は、マイナス50.0で、前月から23.1ポイント下降。翌月予測もマイナス40.7で、前月から0.7ポイント下降している。

飯伊地区の高齢者、外国人労働者に関する統計

「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」「育児や介護との両立など、働き手のニーズの多様化」などの状況に直面しているわが国で、働き手の置かれた個々の事情に応じ、多様な働き方を選択できる社会を実現し、働く方一人ひとりがより良い将来の展望を持てるようにすることを目指した、「働き方改革」。

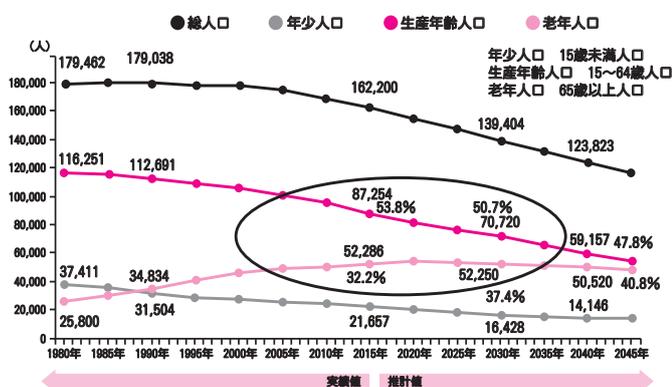
この中で、「女性が活躍できる環境整備」、「高齢者の就業支援」、「外国人材の受入」といった、「ダイバーシティの推進」に向けた施策が推進されている。

今回は、当地域の高齢者や外国人の就労状況に関する統計をご紹介します。

(1) 当地域の人口の推移

次のグラフは、「国勢調査」、「日本の地域別将来推計人口」（国立社会保障・人口問題研究所）をもとに、当地区の年少人口（15歳未満人口）、生産年齢人口（15～64歳人口）、老年人口（65歳以上人口）の推移と予測を見たもの。このグラフから、総人口に占める生産年齢人口の割合と、老年人口の割合が年を追うごとに接近して行くことが分かる。企業にとっても、女性や高齢者、外国人といった多様な人材の活用が重要な課題となってくるのではないだろうか。

人口推移

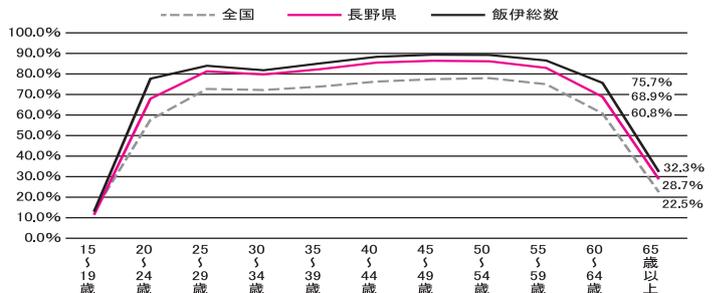


(2) 高齢者の就業率

それでは、高齢者の労働参加の状況を確認してみたい。次のグラフは、年齢5歳階級ごとの就業率を示したものである。就業率とは、従業者、失業保険受給者

といった休業者を合わせた就業人口が、15歳以上の5歳令毎の人口に占める割合のことだが、当地域の就業率は全般に全国や長野県に比べると高い水準にあり、60～65歳階級でも約8割の方が就業している。ただ、これが65歳以上となると就業率は32%に低下しており、こうした方々の労働参加をし易い環境を作ることも必要となるように思われる。

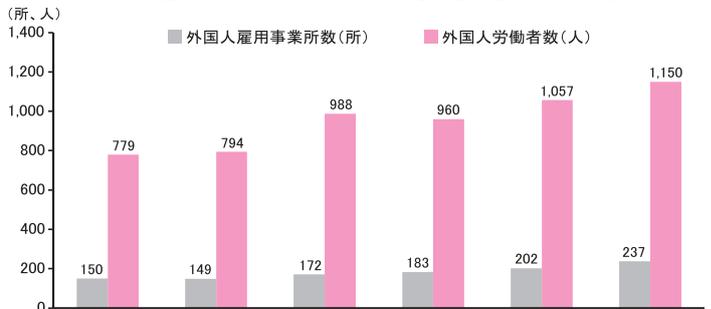
就業率の比較（男女計 2015年国勢調査）



(3) 外国人の就労状況

また、飯田公共職業安定所管内で外国人を雇用している事業所及び外国人労働者数の推移を確認すると、平成25年以降、概ね増加傾向にあると言えるだろう。平成30年10月末現在、237の事業所で1,150人の外国人労働者が従事しており、平成25年10月末と比べると、事業所数にして1.6倍、労働者数にして1.5倍となっている。外国人労働者の雇用には、例えば言語、職業観の違いから職場環境に生じる影響、地域の受け入れ環境、更には世界的に人材の争奪戦が始まっている状況下で単に安い労働者としては扱えなくなるといった課題もあるといわれるが、人口減少の社会では趨勢的に外国人労働者は増えていくのではないだろうか。

外国人雇用状況（飯田公共職業安定所管内）の推移



(※各年10月末現在) (資料：長野労働局「長野県における外国人雇用状況の届出状況」)

機械加工製造業

電気、精密機械器具の受注は、前月比概ね横ばいも、販売は前月比減少との声。先行きは弱音んでいるという。当月、原材料、資材価格や販売価格に大きな動きはなかった様子。設備面で積極的な声が聞かれた。

半導体、液晶製造装置向け部品の受注は、前月比減少～横ばい。販売は、横ばい～やや増加。「先月同様米中貿易摩擦で、設備投資の後ろ倒し」「一部製品は引き続き好調だが、減少しているものもある」「FPD関連は減少」「金曜休みのところや、残業なしのところがある」などの声が聞かれ、景況感が悪化した業者も見られる。「年度内は厳しい」など、先行きに関する不透明感を指摘する声が多い。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。雇用面では現状維持の様子も、「募集しているが応募がない」との声も

聞かれた。

産業機器や医療機器向け部品の受注、販売の前月比は、増加した業者も複数見られるが、減少～横ばいとの声が多い。「航空宇宙関連は順調に動いているが、その他は先行きが不安」「医療関連は高い水準の生産予定があるが、その理由は現時点では定かではない」など好調な製品もある一方で、「ロボット関連は非常に低迷。客先から見通しが示されず、この先が本当にわからない」「7月後半から仕事量ダウン。客先の中国向けの製品がダウンしている」「稼働日数が少なく忙しい感じがしたが、総量では減少していた」「同業も仕事がない。最悪の状態」「貿易摩擦の影響は大いにある。見通しが立たない」といった声も聞かれ、総じて先行きの不透明感が拭えない様子。こうした中、「少量の特急品が多くなった」「特急案件に対応するため在庫を少し増やした」などの声も。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子も、「先は分からない」との声も。雇用面では、「パートを採用。正社員募集中」「増員予定」などの声もあるが、現状維持との声が大半を占める。設備面でも積極的な声は多くはない。

建築用金属製品の受注は、前月比、前年比ともやや増加との声。「引き続き好調。首都圏の大型物件が増加している。当面多忙」などの声。こうした業者では「受注の増加で製品在庫も増えている」という。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。雇用面、設備面で積極的な声が聞かれた。

自動車向け部品の販売は、前月比概ね横ばい、前年比はやや増加も、景況感の好転には至らないとの声が寄せられた。先行きにも大きな動きは見込まれていないという。

小型電磁機器の販売は、前月比減少との声。先行きも弱含んでいるという。当月、原材料、資材価格がやや上昇しており、先行きもこうした傾向が続く見込みという。

FA関連モーターの受注は、前月比概ね横ばい、前年比はやや減少との声。「産業機械向けが減少で推移」「中国における貿易摩擦の影響が国内で出ている」などの声が聞かれ、先行きも依然不透明感があるという。

光学機器部品の生産は、前年比やや減少との声。先行きも弱含んでいるという。原材料、資材価格に関し、先行きの上昇を見込む声。雇用面の不足が続いているという。

電気、電子製品の生産は、前月比やや減少、「コンシューマー市場が低迷している」など景況感も悪化との声が寄せられた。雇用面で不足感があるという。

地場産業

半生菓子、菓子原料等の売上は、前月比減少～横ばい、一部に前年比やや減少との声。「前月の反動で減少か」「盆明けから厳しい状況が続いている」などの声が寄せられたほか、先行き弱含みとの声も。原材料、資材価格に関し、「値上がり傾向」など上昇しているとの声が複数。こうした中、「製品価格を検討している」との声が寄せられた。雇用面は現状維持の様子。一部に設備面で積極的な声。

水引製品の販売は、前月比、前年比とも業者により増減分かれる。「祝儀用品が毎年減少する中で、正月飾りは比較的好調。例年8月から製作は本格化する。販売は11月、入金は来年と販売条件は厳しいが、正月飾りの販売に努力する」「新製品を手掛けている。数量は小さいが、将来に期待して努力している」などの声。消費増税に関係して、「盆過ぎから年末に向けた問い合わせが増えてきたが、消費増税を控えた活発さは感じられない」「消費増税前にある程度仕入れを増

やす」「量販店の動向を注視している」などの声。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。「人間関係の希薄化も販売が減少した理由だと思うが、キャッシュレス時代の人間関係はどのようなものだろうか」「業界全体で、少しでも宣伝に努めて欲しい」などの声が寄せられた。

漬物の販売は、前月比やや増加、前年比概ね横ばいとの声。「お盆の連休があったが、消費に特別な盛り上がりはなかった感」という。原材料に関し、「8月までは野菜原料も比較的安定していた。これから天候の影響を受け易い時期になるので、注視していく」との声が寄せられた。

その他製造業

食品関連包材の生産は、前月比減少との声。当月、原材料、資材価格に大きな動きはなかった様子。

印刷、出版関連の売上は、前月比減少との声。「8月は稼働日が少なく、仕事量も年間で少ない時期。暑い日が続くエアコンもフル稼働で、電気代もかさむ」などの声が寄せられた。当月、原材料や資材価格に大きな動きはなかったものの、昨年と比べ高騰しているという。雇用面で不足感があるとの声。

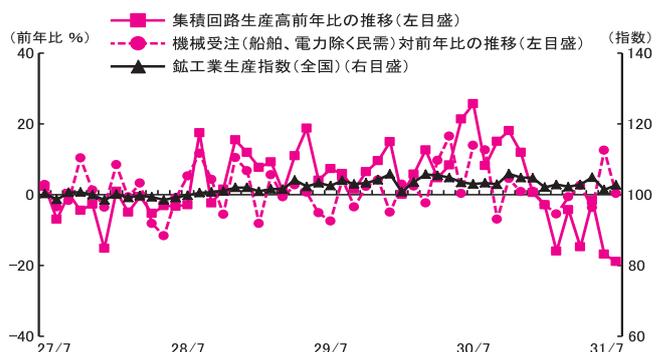
衣料品の受注は、前月比、前年比ともやや増加との声。当月、製品価格に関する報が多く、「アパレルも物作りを商社に委託することが多くなっており、専門商社による海外生産が増えている。必然的に販売量の多い製品が増えるが、円高傾向もあって、現地生産の加工単価が安い水準で推移している」「フォーマルウェアなどでは、上代設定が低く抑えられており、各社苦戦」などの声が聞かれた。また、「生地への輸出は好調」という。依然人員不足が続いている様子。

住宅機器、オフィス家具、店舗用什器等家具の生産は、前月比、前年比ともやや減少、「相変わらず非常に悪い状態が続いている。冷夏、米中、日韓等々、問題山積で景気が良くなる兆しはない。円高基調が追い打ちを掛けそう」など、景況感も悪化との声が寄せられた。当月原材料、資材価格に大きな動きはなかったという。雇用面で「目下不足気味だが、受注状況を注視しながら対応」との声。

【企業からのコメント】

- ★採算割れではないかと思われる受注に手を出し始めた同業も見られる。デフレに陥らないか心配。
- ★SDGsへの取り組みがいろいろな業界で話題となり始めている。
- ★「新卒者の求人への反応が少ない」「従業員の出入りが激しい。定着するよう努めていく」
- ★同業もネット通販に参入し始めた。
- ★日本から生産拠点を移した企業が戻ってくれればと思う。

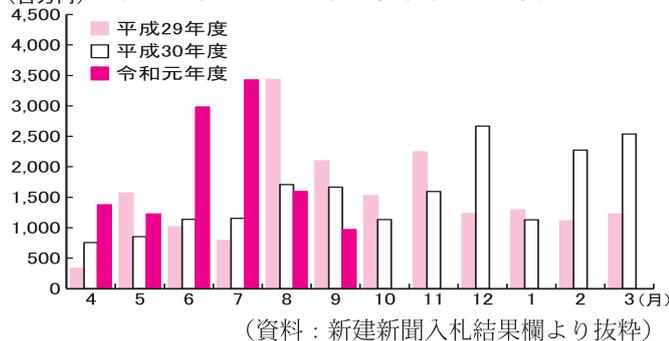
集積回路、機械受注・鉱工業生産指数の推移



建設業

月別入札額

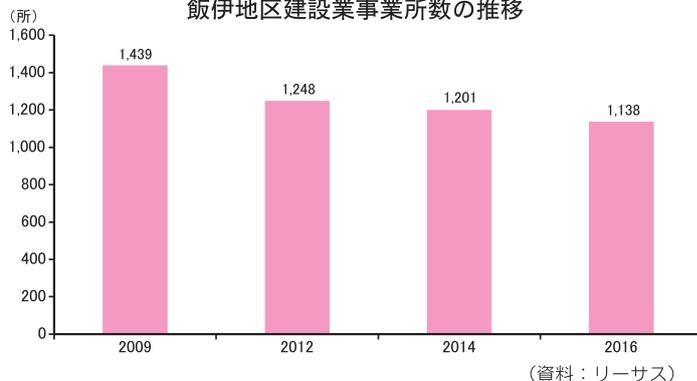
(飯伊地区における県・市町村発注工事)



当月景況DI	0.0	(前月 -8.3)
翌月予測DI	15.4	(前月 0.0)

調査により、飯伊地区建設業の事業所数の推移を示したもので、これによると、2016年の事業所数は2009年に比べて301所、増減率で20%減少している。2009年から2012年の間の減少率が大きく、この間だけで191所、13.3%減少していた。

飯伊地区建設業事業所数の推移



官公需

当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約9.7億円、前月比39%減少、前年比も42%減少している(9月15日調査時点)。

当月の調査先企業の受注残高は、横ばい～増加。「仕事の発注が早く、8月末時点で昨年の10月までの契約高を大幅に超えている」「土木工事一般に加え、災害復旧工事で繁忙。建築工事も受注残で現場は一杯」「国、県、市町村が発注になり、動きが出て忙しい。民間工事は断っている」「地元工事の受注あり」「県工事は、目下昨年度の1.5倍の発注量」など、例年より早めに発注が進んでおり各社繁忙の様子。

こうした中、「相変わらず技術者不足。労務でも法面職人、ガードマンなどが不足。また、ダンプの不足も著しい」「施工職員不足」「人員は不足」といった声が多く聞かれたほか、「同種の工事量が多い傾向にあり、特殊工が不足していることもあってか、不調、不落物件が昨年度を超えている。あまりに急激な量の増大で疲弊してしまうことを危惧している状態。中、長期的な工事量を確保していただき、平準化、閑散期のない工夫をお願いしたい」との声が寄せられた。

こうした中、先行きは弱含みと見る業者も。資材等に関し、当月大きな動きはなかったものの、「上昇傾向」「上昇を見込んでいる」などの声も。一部に工事単価がやや上昇との声も聞かれた。

設備面では、車両の更新などのほか、「ウィンドウズ7の保証期間の関係でパソコン入れ替え」「OS更新によるパソコン入れ替え」「プログラムの購入」など、OA関係の投資を行うとの声が多く聞かれた。

民需

当地区の7月の住宅着工戸数は64戸。前月比12%増加、前年比も146%増加。

当月の調査先企業の受注残高の前月比は、業者により増減まちまち。「新築住宅やリフォームはボツボツなのだが、一般工事は小規模な修繕が少しあるだけで、見込みもあまりない」「建築の大きな仕事はあまりないと思われる。各社さほど忙しくないのでは」「今、建築は供給過剰ではないか。リニア関連工事が本格化すれば人手不足になるのだろうか」といった声の一方、「新築工事は少ないが、リフォーム、修繕工事で受注残高は増加。景況感も良好」といった声も。

飯伊地区の建設業事業所数の推移

次のグラフは、継続して統計の取れる経済センサス

建設資材

鋼材の売上は、前月比、前年比ともやや減少、「依然として状況は良くなく、沈滞気味。8月は稼働日も少なく、売上減。回復を期待しているが、好材料がない」などの声が寄せられた。先行きに関し、「全体的に景気が悪く、好調な分野がない。昨年は9月から上向いたが、今年は不安要素が多く、悲観的な見方も多い。このまま低水準で推移するのではと懸念している」との声が聞かれた。鋼材価格は、「需要の低迷を反映して、弱含み横ばい」という。

生コンの売上は、前月比やや減少。前年比は業者により増減分かれる。当月の主な出荷は、「三遠南信自動車道工事、砂防堰堤工事、工場増改築工事、発電所工事に関わるもの」という。「年度初めに出た工事は終了し、新たに発注された工事には、まだ生コンの動きは出ない」との声が寄せられた。「リニア関連工事の出荷量は前月とほぼ同じで、当月出荷量の5%弱」という。

骨材の売上は、前月比やや減少、前年比は業者により増減まちまち。「今年度の今月までの出荷累計は、昨年度よりも少ない」「期待には届かなかったが、昨年よりは出荷が多かった」「生コンの出荷が相変わらず悪い」などの声。一部に雇用面、設備面で積極的な声も聞かれた。

【企業からのコメント】

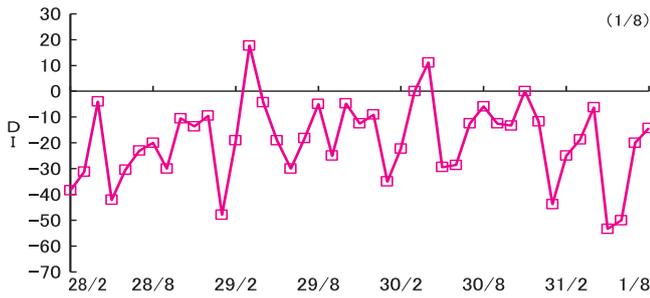
- ★地元業者は工事を受注できている。
- ★パソコンがウィンドウズ7のままの物がいくつかある。消費増税の関係で、パソコンの入れ替えか、OSのアップグレードかを検討している。
- ★生コン、骨材、アスファルト合材の出荷量は少ないと聞いている。

住宅建築確認申請受付状況(※本誌調査による概数)

8月	
○飯田建設事務所分	
新築	9件(前年12件)
増築	3件(前年1件)
○飯田市役所分	
新築	23件(前年25件)
増築	1件(前年1件)

※指定確認検査機関分を含む

商業・サービス業DI



当月景況DI	-14.3	(先月 -20.0)
翌月予測DI	-46.2	(先月 0.0)

商業

食品の売上の前月比は、一部に減少との声も聞かれたが、やや増加との声が多い。もっともこうした業者にあっても、「昨年比に比べ盆の特需減少」など、前年比は減少との声も。先行きは弱含みとの見方が多い「野菜類の価格は高値のまま」など仕入価格が上昇しているとの声が複数。一部に新卒者の採用を予定する声。「10月以降最低賃金の引き上げで人件費は増加の見込み」との声が寄せられた。

【青果卸売市場】

販売は前月比増加も、前年比やや減少という。野菜は、「昨年は高温少雨で高温障害が発生し高値だったが、今年は生育順調。トマト、白菜、南瓜、ニンジンなどは昨年に比べ5～7割台の価格。キュウリは入荷が減少したが価格は安く、野菜全体では入荷量6%減で、価格も15%安と低迷した」という。果実は、「主力の幸水、つがるは、生育が遅れた一昨年並みの入荷。桃、西瓜は盆前に入荷が多く、果実全体では入荷量2%減で、価格は10%高だった」という。

製菓、製菓用品卸の売上は、前月比やや減少との声。先行きに不透明感があるとの声も聞かれた。

電化製品の売上は、前月比やや増加、前年比は概ね横ばいとの声。「小中学校の空調設備事業が続いており、資材、工事ともに順調」「放送設備、火災設備などが良く伸びたが、工場関連は、貿易摩擦の影響もあるのか、設備投資に消極的な様子が窺え、受注につながらない」「今後は冬の季節商品に注力する時期」などの声も寄せられた。

家事用品卸の売上は、前月比概ね横ばいとの声。「夏物の売れ行きは良くなかった。7月の雨の後暑くなったが、それでは間に合わない。秋物は9月に涼くなれば売上もできるだろう」「家庭紙の値上がりが続いている。売価を上げたいが、他社のこともあるし、なかなか難しい」などの声。「消費増税では、レジは更新してあるが、パソコンのシステム変更等が必要で経費がかさむ。何か補助金はないか。また、働き方改革で人件費も増加するが、どこまでやればよいか見えてこない。政策に翻弄されて、地方の企業はどうすればよいか見えてこない」などの声も聞かれた。

衣料品の売上は、前月比、前年比とも業者により増減まちまちも、増加したとする業者にあっても「特需があって数字は良かったが、これを差引くと少しダウン。特に製造業の顧客を始め、全体的に良い話がない」「同業他社、仕入先ともに好況感はない」など、景況感が好転した業者は見られない。「10月以降、原料高などによる商品単価の上昇が見込まれ、厳しくなりそう」「消費増税に関し、今のところ駆け込みの動きは、さほど見られない」などの声も寄せられた。

松本自動車検査登録事務所管内の自動車新規登録台

数は、新車は前月比18%減少、前年比は6%増加。中古車は、前月比22%減少、前年比も3%減少している。7月の県全体の軽自動車新規登録台数は、新車は、前月比6%減少も、前年比は概ね横ばい。中古車は、前月比6%減少も、前年比は3%増加。

サービス業

市内料理店の売上の前年比は、業者により増減分かれる。「夏場の暇な時期を迎え売上を心配したが、前年比増加。しかし、消費増税の前ということもあるのか、比較的静かで、忙しいという感じがしない」「盆前が悪かった。お盆以後は良かったが、前年にいかなかった。消費増税の間近なせいも、お客様が使わない感。ただ、若いお客様が少し増えた」「1～8月の前年同期比はほぼ横ばい。良くはないが、かといってものすごく心配という感じでもない」「雨が長く、寒かったものが急に暑くなった。当店は暑いと敬遠されがち」「人口の割に飲食店は多いと思うが、皆さん頑張っておられる。特に、飯田の人は新しい店に行きたがる傾向があるように思うが、老舗が頑張っていると思う」「メニュー、レジなど消費増税や軽減措置の準備中」などの声も寄せられた。仕入に関し、「色々が値上がり。鮮魚、特にイカやサンマが品薄」という。雇用面で、一部に不足感があるとの声。

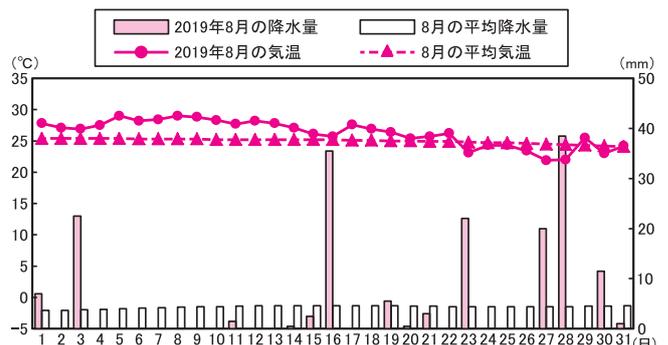
昼神温泉の売上は、前年比やや減少との声。台風の影響は大きかったようで、「夏休みの特需があったが、天候に恵まれず満足していただけなかった」「週末ごとの台風でキャンセル続出。大きなダメージ」などの声。また、ナイトツアーに関し、「料金体系に加えて、星空一本やりに陰りが出ている感」「やはりナイトツアー客は減少している」といった声も寄せられた。雇用面で、「外国人インターンシップは効果あり」「人手不足が、お迎え、見送りから始まり、予約、顧客管理にも影響している。外国人研修生は、賃金が比較的高い一方、言葉の問題がある」などの声も聞かれた。

タクシーの売上は、前月比増加も、前年比はやや減少、「夜間の需要減少と、乗務員不足による稼働率低下が、売上の伸びない最大の理由」というが、「今回の運賃改定では、消費増税分を転嫁するだけの改定となった。乗り控えも予想される中、事業者にとっては厳しい。公共交通機関として適正価格の営業は基本だが、キャッシュレス化、最低賃金の引き上げに対応できるか疑問。バス事業者の撤退後を引き受けることもあるが、どこまで応えられるか。地域の公共交通が空白になっては深刻な問題になってしまう」などの声も寄せられた。「LPGは、安定」という。

【企業からのコメント】

- ★消費増税に関し、カード購入者への対応がまだできていない。手数料負担が大きいのではないかと。
- ★今後間違いなく悪くなる。
- ★工務店と約束してあるが、多忙でなかなか取り掛かってくれない。

飯田の気温と降水量



流れ雲の目（31） 会社の使命

飯田信用金庫 地域サポート部
 専門アドバイザー 小泉 敏郎

日本には上場企業から一人二人の零細企業まで含めると総務省統計で約400万社ある、その内上場企業は約3700社（一部上場企業は約2200社、二部上場企業は約500社、マザーズ以下上場企業は約1000社）であり、全企業の99パーセント以上は100人未満の所謂中小零細企業といわれる会社だ。

個人企業まで含めた会社の規模分布（日本もアメリカも比率は同じで永年変化なし）

1人～9人の会社	82%	
10人～29人の会社	13%	（1人から29人迄の会社 95%）
30人～99人の会社	4%	（1人から99人迄の会社 99%）
1人～150人迄の会社	99.5%	

国税庁による法人企業の実態で、赤字事業は70%、黒字事業は約30%とある。

法人税を払っているのは約30%の企業しかないようだ。

これだけの夥しい企業は何のためにあるのか、そしてこれらの企業の存在意義は何処にあるのか。貴方の会社の目的は、使命は何でしょうか？

日夜、忙しい思いをして会社の経営を担っている社長さん、貴方は何のためにこんなに一生懸命働くのでしょうか。社長以外の幹部の方、もし自分が社長ならどうすればいいのでしょうか？企業の使命とは何でしょうか？

私の考えでは、企業は継続する事が使命ではないでしょうか。

企業は継続しなければならない、社長は会社を継続させなければならない。

企業は継続することに意義がある、継続が命。継続は力なりでなく、力があるから継続可能。

企業が継続出来るためには利益が無ければ絶対に成り立たない、それも倫理観に基づく正攻法での適正利益が無くてはならない。利益は必要条件であり、企業継続の源泉である。

利益を出すためにはお客様に喜ばれる存在意義のある会社になる必要がある。

存在意義のある会社、お客様に好まれる企業になるためには、社員が明るく生き甲斐を感じ気持ちよく前向きに良い仕事出来る環境の会社でなくては成り立たない。

経営者の経営思想が最も大事であり、経営者がその良い環境を提供できる必要がある。

客先、社員（社員家族）、仕入先の三方が全て幸せな会社であり、それぞれに適正な報酬を受け取れる会社にならないといけない。

そして法人税を国に払い、明日への設備投資や新製品開発、技術、人への投資をし続ける会社になることが大事である。

継続するためには、利益。その為には客先に好かれる存在、従業員、仕入先の幸せ。法人税を払い、設備投資のできる経営と好循環サイクルを廻す必要がある。これらの好循環サイクルを廻すのは社長経営者の仕事であり、その手腕が試されることになる。

経営者の大事な事項

1. いま自社の現場で何が起きているのか、客先は何を求めているのか、という現実を正確に把握できているか。
2. 経営の絶対的な共通教科書はありえない、その企業の置かれている環境、マーケット、会社の規模、人材、技術、協業状況によって戦略は自ずと皆違ってくるものである。
3. 社長一人では経営はできない、社員の力の結集、社外関係者との連携、それをするには社長の人間的魅力、経営思想、強いリーダーシップが必要である。

強く良い会社とはお客様を喜ばせている会社、それを通じて世の中に貢献している会社。社員が働くことに生き甲斐や充実感を持って幸せを感じられる会社。

これらの条件を満たすには利益を上げることが必要最小限の原則である。

そして将来のあるべき姿を示し、具体的な売上利益数値目標を掲げ、その目標数値の必要性を明快に従業員に示すことができ、賛同を得られることが重要である。

しかしながらこれらの小さな会社の生き残りはそう簡単なことではない、どのように戦えばいいのだろうか。企業の力は大きく分けて二つ 商品力と販売力である。

また何を何処で誰に売するのか、この三要素を徹底的に分析することが大事である。

ランチェスター弱者の経営戦略において、小さな会社は専門分野に集中し一点突破主義。自社の得意分野を作ること、あくまでも自分本位ではなく顧客目線で考えることが必要とある。あなたの会社の特徴、長所、強みは？これらを見極めることが大事である。

永年継続して経営しているわけだから必ず何か他社に無い良い点、長所特徴があるはずであるが、自社の売上げの上位が必ずしも自社の特徴とは言えないので注意が必要である。ナンバーワン企業の圧倒的優位性、圧倒的なメリットは同業他社と比較して極めて高い収益性を上げていることに注目したい。商品、サービス、地域、販売経路、客層、顧客等 細かく見ていればどこかに自社が一番の部分が必ずあるに違いない、一番勝っている可能性のある部分があるのなら、そこの一点に集中して狙っていくのが、中小企業のナンバーワン作り戦略である。集中すべき分野が決まったら出来る限りの経営資源(人、物、金)をその一点に集中投下することである。

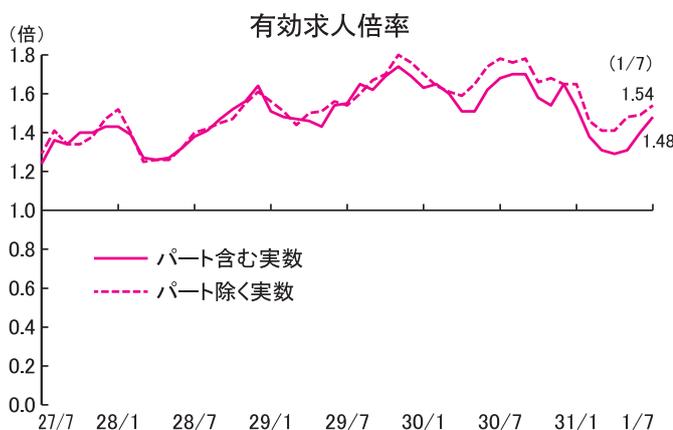
貴方の会社にも必ず他社にはない強みがあるはずですが、皆で是非それを探し出しその強みを更に向上させることで盤石な体質強化を構築して頂きたい。

飯田信用金庫では、2名の専門アドバイザーによる継続的な事業支援を行っています。

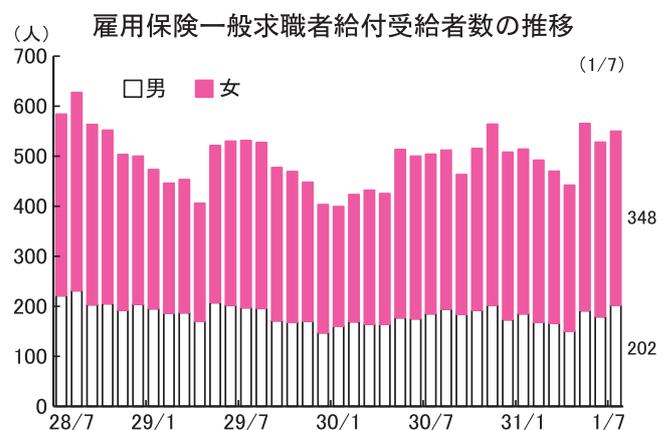
今回執筆を担当した当金庫専門アドバイザー 小泉 敏郎 は、工場、営業、企画など製造業の各部門を経験し、取締役、社長として経営にも携わった経験を基に、皆様の工場等を拝見し、お話を伺った上で、多角的な視点から、皆様の課題の解決に向けた取組のお手伝いをさせていただきます。

ご用命は、お取引の支店、または 飯田信用金庫 地域サポート部 企業経営サポート課(飯田市本町1-2 飯田信用金庫4階 TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132)まで お気軽にお申し付けください。

雇用の状況



令和1年7月の月間有効求人倍率は、パートを含む実数で1.48倍と、前月から0.08ポイント上昇。パートを除く実数も1.54倍で、前月から0.05ポイント上昇している。



令和1年7月の雇用保険一般求職者給付の受給者数は前月に比べ、男性は23人増加、女性は1人減少。全体では550人と、前月から22人増加している。

(資料：ハローワーク飯田)

リニア時代を迎える飯伊地域の資源（7）

赤石山脈（南アルプス）（4） 上伊那地域・北沢峠

～南アルプス林道・登山バスを核として多くの来訪者～

1. 南アルプス登山口北沢峠へ

上伊那地域の南アルプス登山口北沢峠（2,032m）を訪れた。伊那市長谷地区の仙流荘バス停へ行くと100台規模の駐車場が2つあり（繁忙期には隣接川河川敷を駐車場として使用）、来訪者はここで登山バス（「南アルプス林道バス」）に乗り替える。登山バスは、定員28名で、上り・下り各5便（夏場は上り6便）で運航している。運行期間は本年の場合、6月15日から11月15日まで戸台口～北沢峠間を、4月25日から6月14日までは戸台口から途中の歌宿までの運行となる。運転手によると「定員に達すると時間前に発車し、増発車両を入れる」運行を行っているという。訪れたのは8月初めの平日、午前10時台のバスであったが、ほぼ満員。北沢峠に上がると、110人収容の宿泊施設やトイレなど、来訪者への対応施設が整っている。

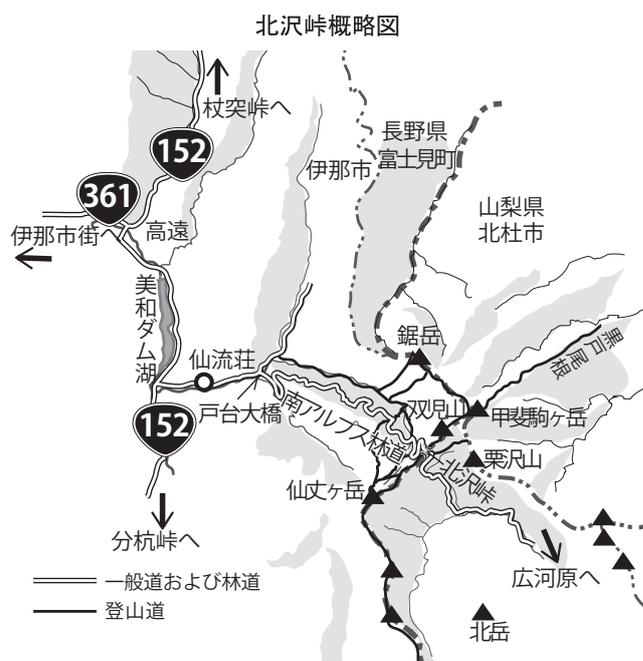


南ア登山の玄関口 戸台口仙流荘バス停
(リニア対策課撮影)

2. 来訪者で賑わう北沢峠

北沢峠の魅力は主要ピークへのアクセスの良さにある。北沢峠からは双児山（2,649m）を経由して百名山の甲斐駒ヶ岳（2,967m）へコースタイム4時間40分。山梨県側からの黒戸尾根ルートと同9時間余に比べると登山者にはたいへん都合のよいルート。また、同じく百名山の仙丈ヶ岳（3,033m）へは3時間20分のコースタイムで、いずれも朝一番のバスに乗れば日帰り登山が可能になる（右概略図参照）。北沢峠からはこの他栗沢山や仙水峠など、登山に、散策にとバリエーションに富んだ行動がとれる。

北沢峠へは山梨県側からの登山バスも運行されており。これに乗り継ぎ、山梨県の広河原等他登山基地への移動が可能である。



(リニア対策課作成)



北沢峠 南ア林道バス停留所・奥がこもれび山荘
(左：伊那市街方面 右：山梨県広河原方面) (リニア対策課撮影)

この北沢峠へ仙流荘から繋ぐ南アルプス林道は「長谷村三峰川流域と山梨県野呂川流域の林業振興と観光開発を目的に、森林開発公団が昭和42年から13年かけて行った。昭和45年から2年間は、自然保護団体からの反対運動によって、工事が一時中断された」が「一般車両の乗り入れ禁止、登山者の多い期間は村営バスを運行する等の条件で工事は再開され、昭和54年11月（中略）完通した」（長谷村村誌 平成6年刊行）。林道開設までのいきさつはあったものの、現在では同林道は南アルプス北部へのアプローチの上で重要な資源となっている。

北沢峠および南アルプスへどれ程来訪者があるか。県観光地利用者統計（平成30年版）によると（上グラフ）、平成23年までは調査地「南アルプス北部」として、平成22年には年間177千人を数えた。同24年からは対象が南アルプス北部に加え、「ゼロ磁場・パワースポット」で近年人気のある分杭峠を含めた「北アルプス北部・分杭峠」となり、近年は8万人程度で推移していたが30年は6万人台となっている。市商工観光部山岳高原観光課によると「県統計『南アルプス北部・分杭峠』の内訳は、分杭峠来訪者が約2万人程度、残りが南アルプス北部となる。北沢峠登山バスの乗車人数をベースにしており、往復でカウントされるため、来訪者数はその半分程度になる」とのことである。

3. リニア開通後を見据えた二次交通への検討

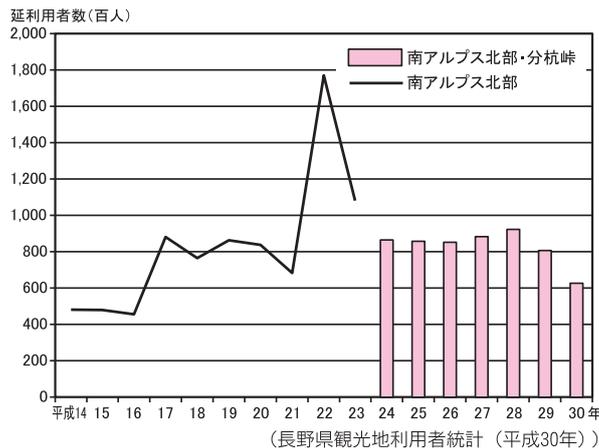
南アルプス林道バスの運行に当たるバス運転手やバスセンタースタッフなどは伊那市の職員である。これは、前述の南アルプス林道開設の際の条件である登山客の輸送には地元自治体が対応するというので、旧長谷村時代から変わらない。このような登山バスの運行は、県内はおろか全国的にも極めて少ない事例という。

また、伊那市はJR特急ダイヤと同期した北沢峠へ運行する登山者向けバスを企画している。「新宿からJRで行く南アルプス」（「ジオライナー」）は、茅野駅（JR東日本）から杖突峠、高遠を經由して仙流荘まで1日往復1便、「名古屋からJRで行く南アルプス」（「パノラマライナー」）は、木曽福島駅（JR東海）から仙流荘まで1日往復1便で、両ライナーが南アルプス林道バスに接続する。両ライナーはジェイアールバス関東により7月から11月に運行され、今年で3年目になる。北沢峠へは自家用車利用が主でJR飯田線利用のアクセスは望めないことを考慮して、JR中央東線・西線特急利用が企画された。バス会社の路線申請による運行であるが、市で企画、プロモーションを行い、単独での採算は難しい状況の中で赤字補填を行っている。

リニア開通を見据えては、JR飯田線への乗換新駅設置による接続が検討されている他、リニア駅から飯伊地域・上伊那地域の各観光地へどのように誘導するか、今後個別の検討課題となっていくであろう。その中で伊那市のこの取組みは、たいへん参考になるものといえる。

（飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平）

南アルプス北部等への来訪者数の推移



「南アルプスジオライナー」リーフレット



「南アルプスパノラマライナー」リーフレット

